

令和四年度

# 第一回一般入試 学力検査問題

## 国語

(五〇分)

注 意

- 一 試験監督の指示があるまで、問題冊子と解答用紙に手を触れてはいけません。
- 二 試験時間は「始めてください」の指示から、「やめてください」の指示までの五〇分間です。試験監督の指示に従ってください。
- 三 問題は【一】から【五】まであり、問題冊子の一〜十ページに印刷されています。
- 四 問題冊子とは別に、解答用紙があります。解答は、すべて解答用紙の所定の箇所に書き入れなさい。
- 五 字数を指定された解答については、句読点、カギ括弧（「 や 」）なども一字に数え、指定された字数で答えなさい。
- 六 問題冊子は、試験終了後、持ち帰ってもかまいません。

伊那西高等学校

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈本文省略〉

問1 本文中( )に入る言葉としてもっとも適当なものを、次のa～eから一つ選び、記号で答えなさい。

- a しかし      b そして      c なぜなら      d たとえば      e もちろん

問2 本文中~~~~線部の「れる」と同じ意味用法のものを、次のa～eから一つ選び、記号で答えなさい。

- a 担任の先生が転任される。  
b 昔のことがしのばれる。  
c このきのこは食べられる。  
d 親に手伝いを言いつけられる。  
e 世界遺産に登録される。

問3 本文中——線部①「相手から自分に向けられるまなざしを受けとめながら、(はいま・ここ)の自分のあり方を振り返り、とらえ直す」と同様の内容を表している箇所を、本文中から三〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問4 本文中——線部②「こうした言葉」とは具体的にどのような言葉を指すか、本文中から二〇字以内で抜き出して答えなさい。

問5 本文中——線部③「彼女の内面で確実に何かが変わったのだと思います」について、「何か」とは何か、本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問6 本文の内容に合致するものを、次のa～eから一つ選び、記号で答えなさい。

- a ムカツクとかうざいといったたぐいの言葉は、周りの人を傷つけてしまうことがあるので、好ましくない。  
b ムカツクとかうざいといったたぐいの言葉は、小学生や中学生が好んで使っている。  
c ムカツクとかうざいといったたぐいの言葉は、大人が冗談半分で使う分には大きな問題にはならない。  
d ムカツクとかうざいといったたぐいの言葉を使うことで、自分が他者に対して受身の姿勢を取っている。  
e ムカツクとかうざいといったたぐいの言葉は、大人になると自然に使わなくなる。

問7 本文中——線部ア～オの漢字の読み方を平仮名で答えなさい。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、<sup>※注1</sup>天竺の人、宝を買はんために、<sup>※注2</sup>銭五十貫を子に持たせてやる。大きな川の端を  
川岸を  
宝を買おうとして

行くに、<sup>a</sup>舟に乗りたる人あり。舟の方を見やれば、舟より亀、くびをさし出したり。

<sup>b</sup>銭持ちたる人、立ちどまりて、その亀をば「なにの料ぞ」と問へば、「殺して物にせんず  
「殺して使おうと思ってるのだ」

る」といふ。<sup>①</sup>「その亀、買はん」といへば、<sup>c</sup>この舟の人はく、「いみじき大切な事ありて、  
「非常に大事なことがあって  
「その亀を買おう」

まうけたる亀なれば、いみじき値なりとも、売るまじきよしをいへば、なほあながちに、  
「たいそうな値段であっても売ることはできない」  
なお無理やりに

手をすりて、此の五十貫の銭にて亀を買ひ取りて、放ちつ。

心に思ふやう、<sup>d</sup>親の、宝買ひに隣の国へやりつる銭を、亀にかへてやみぬれば、親、  
亀に換えて使いきってしまったので

いかに腹立ち給はんずらむ。さりとてもまた、親のもとへ行かであるべきにあらねば、  
どんなに腹を立てなざるだろうか。そうはいつでも、親のもとに行かないわけにもいかないので、

親のもとに帰り行くに、道に人あひていふやう、「<sup>②</sup>ここに亀売りつる人は、この下の  
あなたに

渡りにて、舟うち返して死ぬ」となん語るを聞きて、親の家に帰り行きて、銭は亀に  
渡し場で、舟がひっくり返って死んだ」

かへつるよし語らんと思ふ程に、親のいふやう、「なにとて、この銭をば返しおこせたる  
「どうしてこの銭を返して寄越したのだ」

ぞ」と問へば、子のいふ、「<sup>③</sup>さる事なし。その銭にては、しかしか亀にかへて、  
「そうではありません。」  
これこれで亀に換えて

ゆるしつれば、そのよしを申さんとて参りつるなり」といへば、親のいふやう、  
「<sup>④</sup>そうではありません。」

「<sup>e</sup>黒き衣着たる人、おなじやうなるが五人、おのおの十貫づつ持ちて来たりつる。これ、  
似たような出で立ちの五人が

そなり」とて見せければ、この銭、<sup>⑤</sup>いまだ濡れながらあり。  
まだ濡れたままだった。  
その銭だ

はや、買ひて放しつる亀の、その銭、川に落ち入るを見て、取りもちて親のもとに  
実は、

子の帰らぬさきにやりけるなり。  
子が帰ってくる前に届けたのだった。

『宇治拾遺物語』より

※注1 天竺……インド

※注2 貫……銭を数えるのに用いる単位。一貫は、一千文なので、かなりの高額。



【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大手総合出版社の玄武書房でまもなく定年を迎える荒木公平は、国語学者の松本と新しい国語辞典『大渡海』の編纂を計画しており、その編集者として馬締光也をスカウトする。以下は、馬締が初めて『大渡海』の編纂室を訪れた場面である。

〈本文省略〉

〈本文省略〉

問1 本文中~~~~線部a〜cの表現について、本文中での意味としてもっとも適当なものをア〜エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「適材適所の原則を踏みはずしてしまった」

ア 出版会社にとって辞書の編纂は大切な仕事であるのに、採算が合わないからという理由で、辞書の編纂をしなかった。

イ 社員は自分が希望した仕事内容を選択できるべきであるのに、会社の都合で希望しない仕事内容になってしまった。

ウ 会社は社員の性格や特性によって適切な仕事内容を与えるべきであるのに、そのような配慮をしなかった。

エ 出版会社にとって大切なことは、良い本を作ることであるのに、本を売る営業の仕事ばかりを重視してしまった。

b 「立ち歩くミイラを目撃したような表情」

ア とても恐ろしいものを見たような表情 イ とても興味深いものを見たような表情

ウ とても不思議なものを見たような表情 エ とても美しいものを見たような表情

c 「幼稚園児を見守る心境」

ア これからどのように成長するか楽しみだ イ 何か失敗してしまわないか心配だ

ウ もっとがんばれるはずなのにもどかしい エ 無邪気に振る舞う様子が微笑ましい

問2 本文中——線部①「そうか、と荒木は察した」とあるが、どのようなことを察したのか、本文中から三十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問3 本文中——線部②「松本先生がうなずいた」とあるが、この時の松本先生の気持ち

問4 本文中——線部③「馬締の目が輝きを帯びている」とあるが、馬締がこのように  
思いになった理由を本文中の「きみに託す」ということばを入れて、わかりやすく説明しなさい。

問5 次は、本文中——線部「辞書は、言葉の海を渡る舟だ」について、春子さんと秋雄くんが、佐藤先生と話し合った対話文である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

春子さん 先生、この「言葉の海」とはどういう意味ですか。

佐藤先生 では、一緒に考えてみようか。最初に国語辞典の歴史を見てみよう。

日本最古の国語辞典は、平安時代に編纂された『色葉字類抄』であると言われているんだ。その後、いろいろな辞書が作られたんだけど、明治になって、外国の辞書を参考に、大槻文彦というひとが『言海』という辞書を編纂したんだ。

秋雄くん その『言海』と「言葉の海」とは関係ありそうですね。

佐藤先生 そうだね。では春子さん、「海」にはどんなイメージがあるかな。

春子さん うーん、広いとか深いとか、そんなイメージです。

佐藤先生 すると、「言葉の海」とはどういうことだと思いますか。

春子さん 「言葉は、数が多くて意味も深い」ということを海にたとえた表現ということですか。

佐藤先生 そうだね。では、その海を渡るのにどうして辞書という舟が必要なんだろうか。

秋雄くん 荒木は「ひととは辞書という舟に乗り、暗い海面に浮かびあがる小さな光を集める」



と言っています。これと関係ありそうなんだけど。

佐藤先生 では、一緒に考えてみよう。ところで秋雄くん、「右」ということばを辞書で引いてみたことはあるかな。

秋雄くん 「右」は引かなくても分かるから引いたことはありません。

佐藤先生 では聞くよ。「右」とはどんな意味ですか。

秋雄くん 鉛筆や箸を持つ手のほうです。

春子さん でも、左利きの人もいますよ。

秋雄くん では、心臓がないほう。

佐藤先生 中には、心臓が右側にある人もいますよ。では、辞書を引いてみよう。

秋雄くん、一覽表にまとめてくれるかな。

秋雄くん はい。このようにまとめてみました。

岩波国語辞典 (第八版)	東を向いた時、南の方、また、この辞典を開いて読む時、偶数ページのある側をいう。
三省堂国語辞典 (第七版)	「一」の字では、書き終わりのほう。「リ」の字では、(C)。
新明解国語辞典 (第八版)	アナログ時計の文字盤に向かった時に、一時から五時までの表示のある側。

佐藤先生 ありがとう。秋雄くん、これをまとめてみてどんな感想を持ったかな。

秋雄くん 辞書は、言葉を正確に理解するためにも大切なものだと思います。た。それと、そのために辞書を編纂するひとはとても工夫しているんだと思いました。

佐藤先生 うん。辞書があることで「D」と並べられた言葉を、私たちが使うことができるんだね。

春子さん 「右」というよく使われる言葉も、改めてその意味を聞かれると答えられないように、「言葉の海」は、「暗くて」「茫漠」としているということでしょうか。

佐藤先生 その通りです。だから、私たちは、その言葉の意味をしっかりと理解して正しく使わないといけないんだ。

秋雄くん すると、「小さな光」というのは、それぞれの言葉の持つ「意味」ということになりますね。

春子さん だから、「E」には、「ふさわしい言葉で、正確に」伝える必要があるということですね。

(1) 対話文——線部Aに関連して、平安時代に書かれた作品を次のア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 源氏物語    イ 古事記    ウ 枕草子    エ 奥の細道    オ 土佐日記

(2) 対話文——線部Bを表すことばを本文中から二字で抜き出して答えなさい。

(3) 対話文の空欄(C)にはどのような言葉が入るとよいか、考えて答えなさい。

(4) 対話文の空欄「D」に入る言葉を、本文中から十五字で抜き出して答えなさい。

(5) 対話文の空欄「E」に入る言葉を、本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

【四】次のA・Bは、『岩波国語辞典』の第七版新版（二〇一一年発行）と、第八版（二〇一九年発行）の同じあたりの箇所である。二つを比べ、(1)第八版はどちらであると考えられるか、一つ選び記号で答え、(2)またその理由についてわかりやすく述べなさい。

〈省略〉

【五】次の(1)～(5)のカタカナの部分を漢字に直して、楷書で書きなさい。

(1) アザやかな緑に覆われた山。

(2) 夏目漱石の小説をカンショウする。

(3) 彼とは、一〇年ぶりのサイカイであった。

(4) 体育の授業の後で、とてもものがカワいていた。

(5) せみがカラを破って出てきた。